

登録団体見て歩き

ふれいす

代表の深見さんにお会いして話を聞きました。

「ふれいす」は2011年4月から活動を開始しました。湘南エリアで暮らす、主に障がいを持つ方とその家族が地域の中で楽しく過ごすことができるように、様々なイベントを開催してきました。また、「ふれいす」は、他の団体とコラボしてより楽しいイベントを作り上げてゆくとのことでした。

「スポーツクラブ」障がいを持つ方は身体を動かす機会が少なく、その結果体重増やストレスが溜まることも多いし、学齢期の子どもさんも障がいを持っていると、遊ぶ相手や場所が制限を受けるので、運動やストレス解消は大切だという発想からスポーツクラブという形を考えついたとのことでした。2011年はハンディキャップヨガというイベントを開催し、障がい者本人だけでなく、家族や介護者、一般の人でも参加して楽しんだとのこと。今年は更にダンスや体操、マラソンや、湘南という地域性を生かしたマリンスポーツにもトライしたいということでした。

「コミュニティサロン」障がい児者やその家族は、同じような悩みを抱える方々と交流することで、自然と悩みやモヤモヤが解消されるのでそんな場所づくりを手伝い、当事者団体や親の会、支援者団体等に対して事務所のスペースや機材を提供しているそうです。

「ウェルフェアトレードショップ」2011年は障がいを持った方々が作った製品や作品を販売・展示するイベントを開催してきましたが、2012年は更にネット上にこのようなショップをオープンしたいと計画中で、賛同する人や団体を探しています。

また、ふれいすはメンバーを募集しています。湘南エリアで暮らす、障がい児者とその家族やきょうだいの皆さんの参加を期待しているとのことでした。(取材 廣明)

Blog: <http://place-shonan.blogspot.com/>

E-Mail: place.fukami@gmail.com (代表 深見)



Share Heart KAMAKURA

東日本大震災から1年。鎌倉市からもたくさんの支援団体が現地に入りました。そして現在もその支援は続けられています。その中の一つが「Share Heart KAMAKURA」。『ハートのおすそ分け』を意味するそうです。

震災から2か月半ほど経った6月初旬のある日、NPOセンター鎌倉に1人の女性が相談に見えました。「義援金だけで終わって良いのか。継続的な現地支援はできないか。東北の物産展を開いて支援したいと思っている」と熱く語られた方が団体の代表を務める梅津さんでした。梅津さんと相談を受けたセンターの事務局長がニーズを知るために現地に入ったのは、その日から2日後のことでした。

自分にできることは、「直接的復興支援～被災地の特産物売る＆買う」ことであるとの思いを新たにして、販売ルートの確保を始めました。横浜で行われていた物産展で知り合った方の紹介やフェイスブック等により販売ルートを開拓し、今では障がい者施設20施設、物産会社15社と提携しているそうです。

鎌倉で物産展を開催するためにNPOセンターでアドバイスを受けました。これまでに20か所で物産展を開催したそうですが、定期的に安定した支援をすることが必要と考え、復興支援団体(5団体)と実行委員会「東北ココロ結ぶプロジェクト in 鎌倉」を立ち上げ、鎌倉学習センター前での物産展開催を実現しました。

「活動は大変だけど、活動を通して多くの方と知りあうことはとても楽しい。助けられる人が助けられる方法で支援することが大切。『人と人とのつながり』『困った時はお互い様』を忘れずに今後も活動を続けたい」と梅津さんはおっしゃいます。(取材 中垣)

連絡先: TEL/FAX 0467-25-0374

E-Mail: noeru1225@kind.ocn.ne.jp (梅津)

